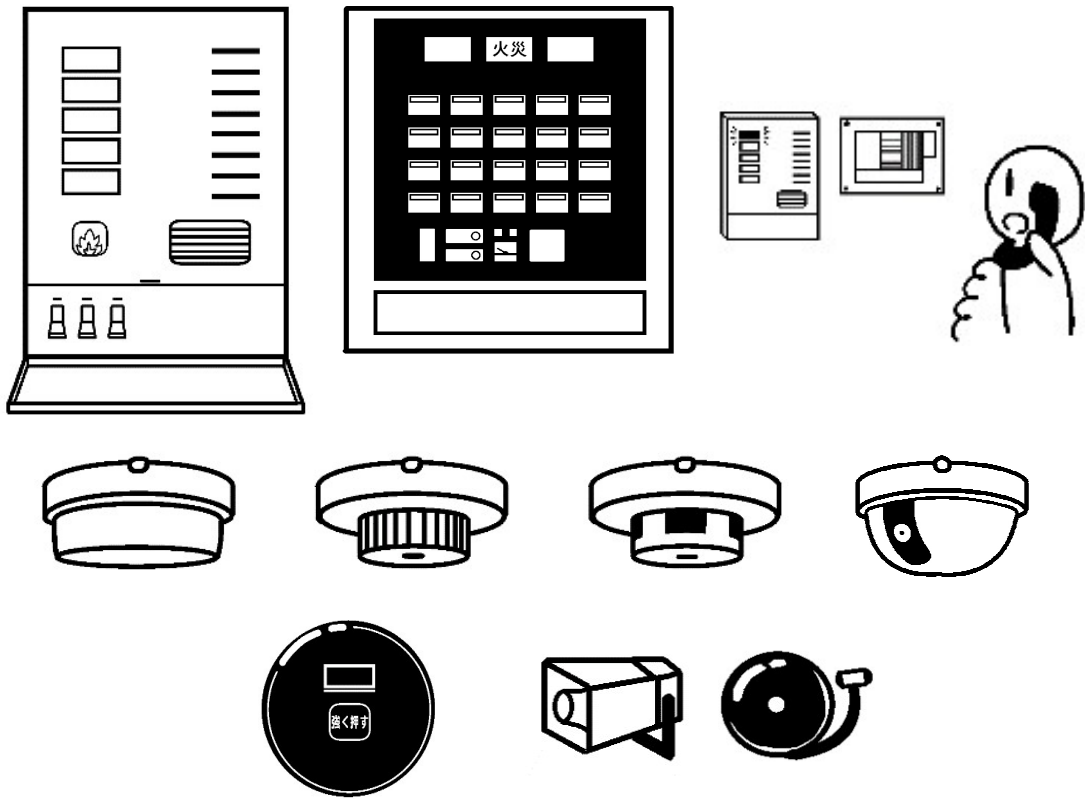


自動火災報知設備

火事が起きたことを知らせる設備

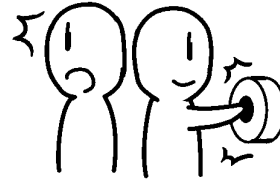


① 感知器が火事を感じ取る



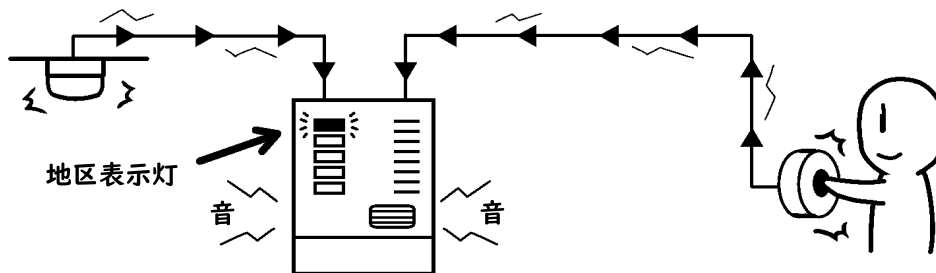
人が火事を見つけて
発信機のボタンを押す

または

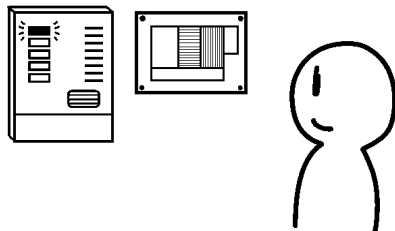


② 受信機から音が鳴り

火事が起きている区域の地区表示灯が点灯する

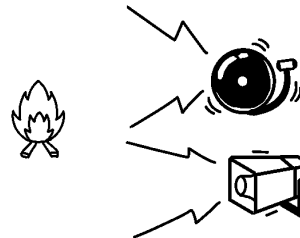


③ 受信機と警戒区域図を見て
火事が起きている区域を確認する

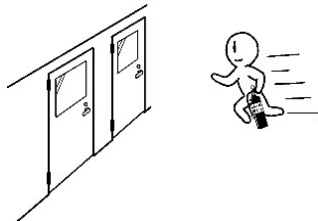


and

③ 音響装置が鳴る

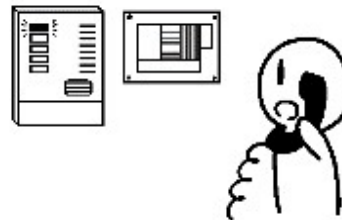


④ 火事が起きている区域に行き
火事の場合と状況を確認する



and

④ 119番通報をする



⑤ 消火活動と避難誘導をする



能力

感知器

- 「熱」「煙」「炎」 種類によって感知するものが違います



熱を感知



煙を感知



炎を感知

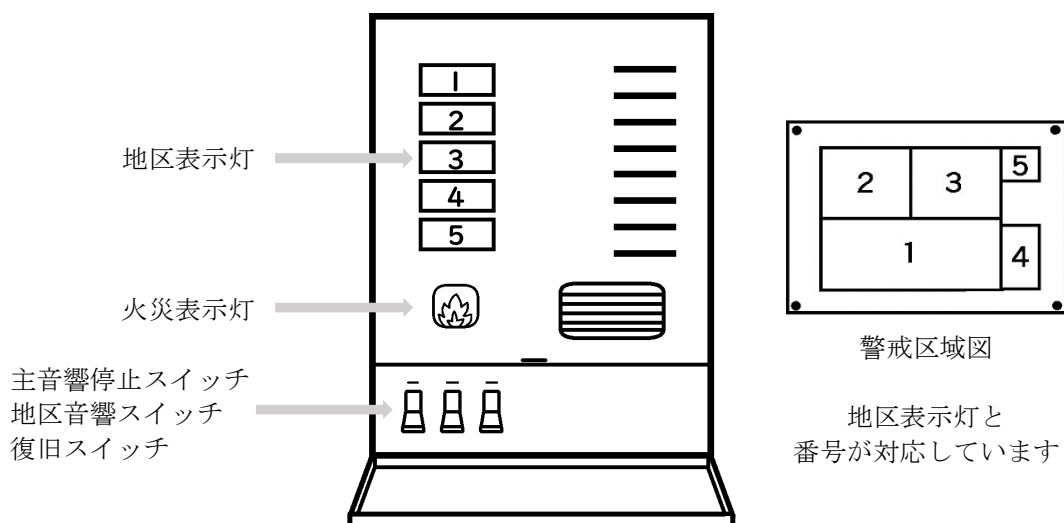
- 作動した感知器は パイロットランプが点灯します



能力

受信機 & 警戒区域図

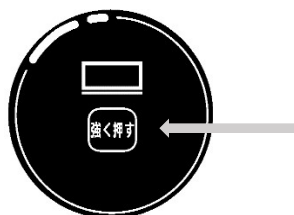
- 火災表示灯は 火事を感知すると点灯します
- 地区表示灯は 火事が起きている区域が点灯します
- 主音響停止スイッチは 受信機から鳴る音を止めます
- 地区音響スイッチは 音響装置から鳴る音を止めます
- 復旧スイッチは 自動火災報知設備の状態を元に戻します



能力

発信機

- 発信機のボタンの板は 大人の指で軽く押せる程度の力（約8 kg）で押すことができます



板を押すことで
自動火災報知設備が作動します

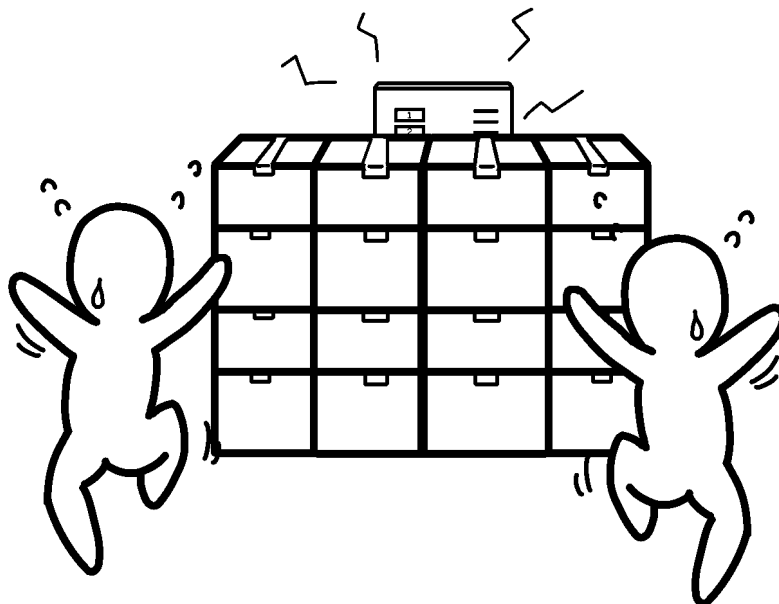
作動している自動火災報知設備を
止めることは できません

注意

①

受信機の前は整理整頓

いざという時に受信機を見れない・・・なんてことがないように！！

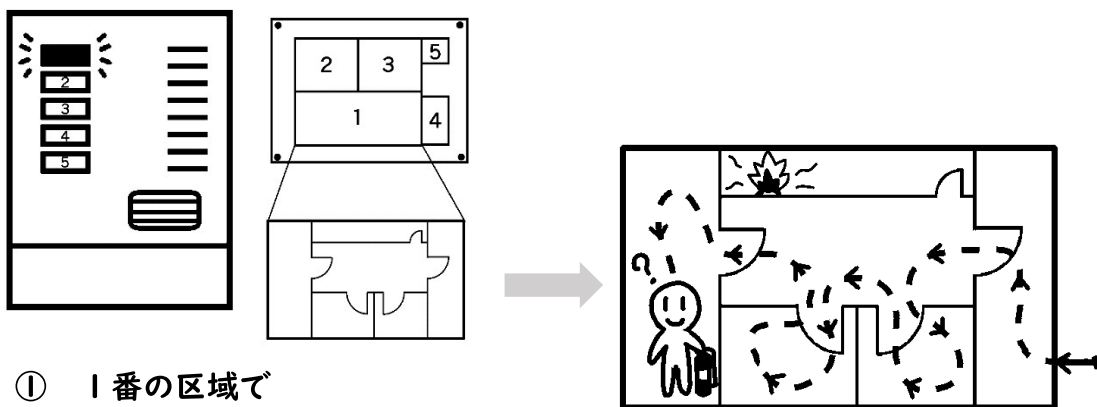


注意

②

火事の場合と状況を確認する

分かるのは 火事が起きている区域まで！
火事の場合と状況を現地で確認するのは 人！



① 1番の区域で
火事が起きていることが
分かります

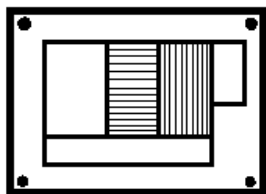
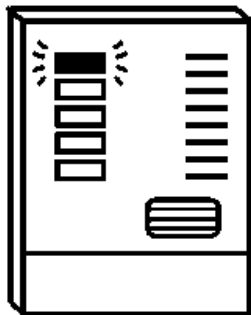
② 1番の区域のどこで
火事が起きているか
確認する必要があります

注意

③

必ず119番通報をする

音響装置が鳴っても 自動的に消防署に通報はされません
119番通報をして 消防車を呼びましょう



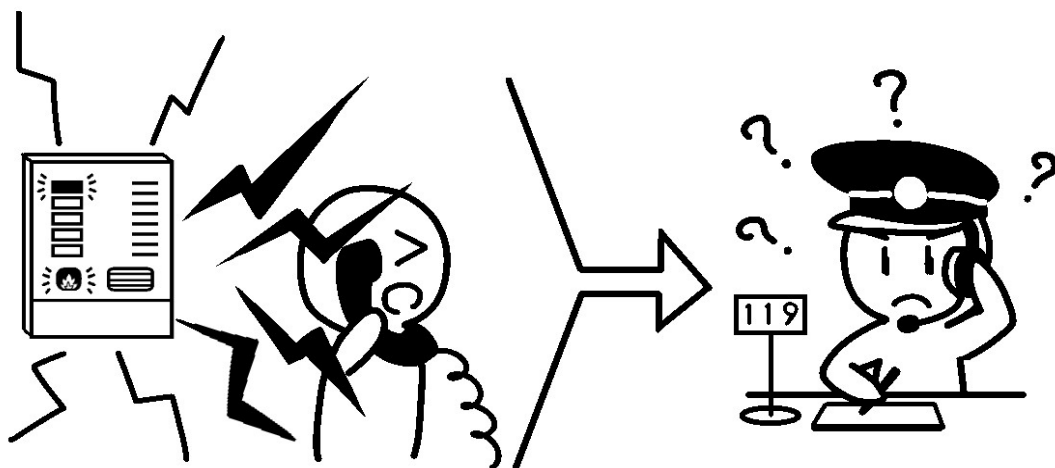
建物によっては
自動的に消防署に通報する設備と
連動していることがあります

注意

④

主音響を止めて 119番通報をする

主音響が鳴ったままだと 音が大きく
119番通報がしにくくなります

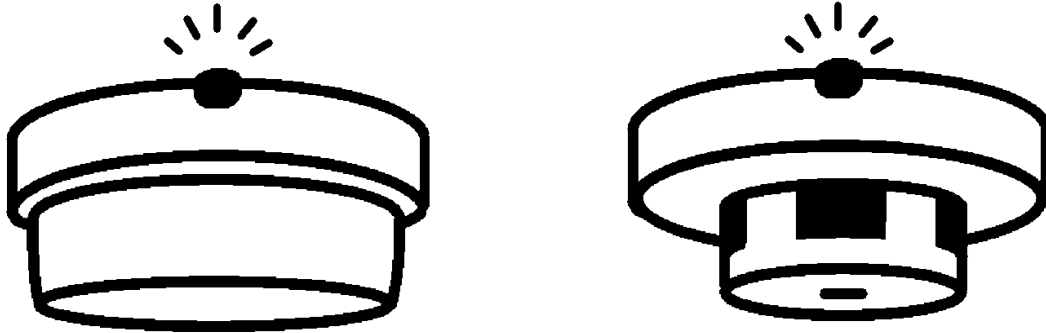


注意

⑤

感知器の点灯部分は小さい

火事を感知した感知器は パイロットランプが点灯します
目を凝らして注意して見ないと 気づきにくいです

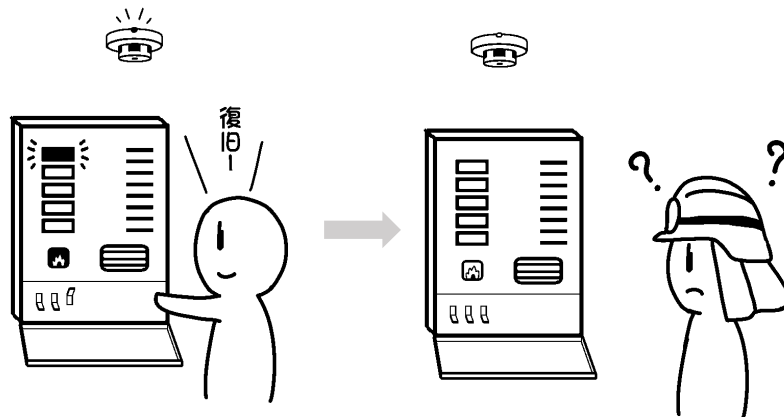


注意

⑥

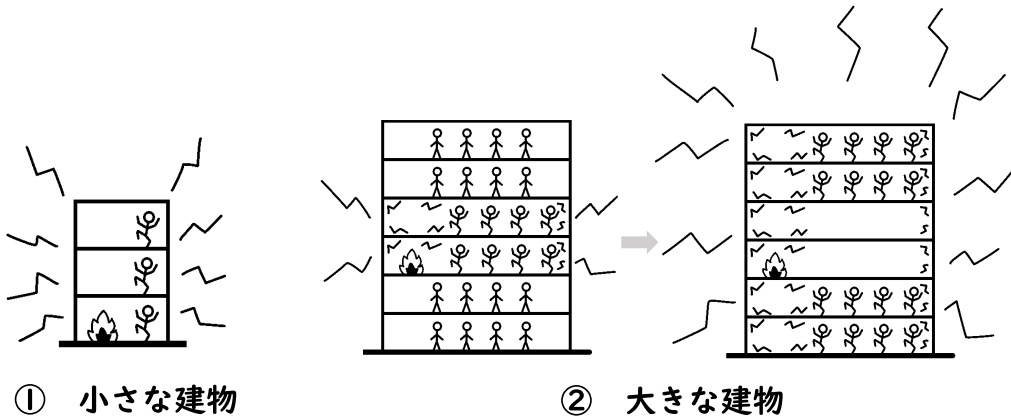
復旧スイッチは 火が消えてから押す

復旧ボタンを押すと
どこで火が発生しているのか 分からなくなります
天井裏などの見えにくい場所で 火が発生していることもありますので
このボタンを押すのは 消防隊が火を確認して
火事の可能性が完全になくなってからです



豆知識

小さな建物では すべての階の音響装置が一斉に鳴ります
大きな建物では 階ごとに時間差があります



① 小さな建物

② 大きな建物

一斉に鳴ります

最初は 火が発生している階と
一つ上の階が鳴ります
少し時間が経ってから 他の階が鳴ります

お願い

自動火災報知設備は 非常に種類が多く
機種やメーカーによって 見た目と能力に大きく差があります

使われている自動火災報知設備の能力について
必ず確認しておきましょう。

